

どなた きらめく銅鐸

カイトとリュウさんの やよい解説

それがだんだん大きく美しく飾りたてるようになってマツリの場で「見もの」もの変わっていったのです。

銅鐸や！青銅器好きとして見逃せんなく。大きい小さいのいろいろあるなあ。

古い ←→ 新しい

銅鐸はもともと見た目通り鳴らす道具だったんだ。

これは左から右に向かって時期が新しくなるように展示してあるんだよ。

うーん…そんなに美しいか？

それはね、長い年月の間に青くサビてしまっているからなんだ。

新しい十円玉と同じように、銅鐸も弥生時代にはピカピカと黄金色に光っていたのです。

なるほどー！！

うーん…そんなに美しいか？

けっこう汚れてるぞ？

わーい！！

銅鐸の音、聞いてみる？

廊下に、木に吊るした銅鐸があるよ！

そっと鳴らしてみましょー！

弥生時代は今と違って金属やガラスがほとんどないから、キラキラとかがやく銅鐸は、すごくキレイで神様や神様の力を感ぜさせる道具だったんだろうね。

日本最大の銅鐸を現代技法で復元した「平成の銅鐸」は、エントランスに展示していますよ！

か…神様の音色…！！

リュウさんも神様なの…。

なぜ緊張してるのよ！

金属の音も神様の音やと思っただんやろか。みんな驚いてたやろなあ。